

基本目標5

魅力ある観光の振興と交流人口の拡大【観光・交流】

第1節

宝を活かした観光の推進

現状と課題

◆ 来訪者の心を惹きつけ感動を与える観光地づくりを進めるため、わが国初の国際交流都市の再発見をコンセプトに、「歴史とロマンの島平戸～大航海時代の城下町～」を開発テーマとした主要プロジェクトを展開しています。

本市の約20%が西海国立公園に指定されており、入り組んだ海岸線など美しく豊かな自然に恵まれています。また、古くから日本で最初となる海外との交流により栄え、当時の歴史を感じさせる史跡も数多く有しているため、観光客も多く、平成18年には約162万人の観光客が平戸市を訪れています。

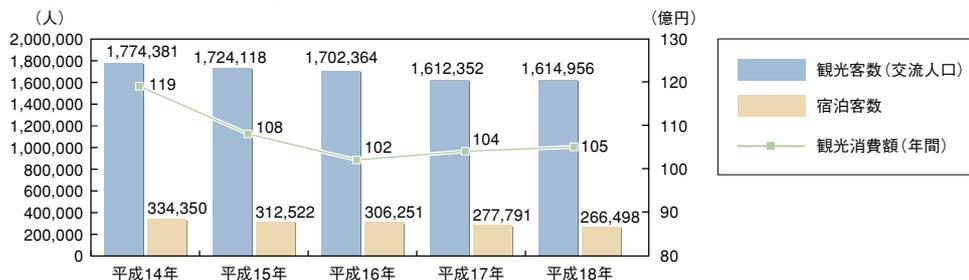
しかし、日帰り客、宿泊客ともに年々減少し、観光消費額の減少にも影響を及ぼしており、魅力ある観光地づくりが課題となっています。

◆ 多くの観光客が、再び訪れたいような観光地としていくためには、心温かいもてなしやあらゆる人々が安心して楽しめる環境づくりに努める必要があります。

また、古くから伝統芸能や地域特有の年中行事等が数多く残されていますが、近年、伝統文化や年中行事を担う人材が不足しています。

今後は、観光産業はもとより、市民と行政が一体となった受け入れ体制の確立や高齢者、障害のある人などが安心して快適に観光が楽しめ、観光客も一緒に楽しめるような交流型観光を推進することが求められています。

■観光客数・宿泊客数・観光消費額の推移



資料:観光商工課

- ◆ 観光客のニーズが多様化し、本物志向が高まる中、滞在時間の短い「見て回る」だけの観光から、地元住民と交流し、さまざまな体験ができる「体験型・滞在型」の観光へと転換しています。

定置網などの漁業体験や平戸焼き、鬼洋蝶などの伝統工芸といった体験型観光メニューを積極的に取り入れ一定の成果をあげていますが、依然として本市の観光が、滞在時間の短い「見て回る」観光が主流となっていることから、地域全体と触れあえるような滞在型観光への転換が必要です。

- ◆ 観光客のニーズの多様化に伴い、団体客から個人客へと旅行形態が変化しており、個人客の多くは、テレビ、ラジオ、旅行雑誌、インターネット等のマスメディアによる情報で

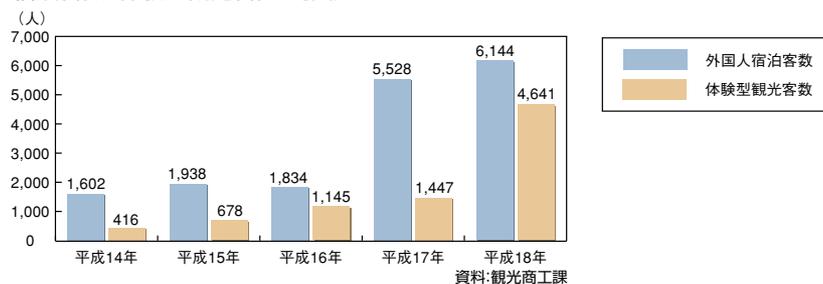
旅行先を決定しているものと考えられます。

そのため、多様化するニーズに合わせて、観光資産の磨き上げを図るとともに、北松浦半島地域などの周辺地域と連携しながら、各種メディアを積極的に活用した観光客の誘致を促進する必要があります。

- ◆ 本市には、キリシタン文化の象徴である教会群、和蘭商館跡や鄭成功居宅跡などヨーロッパや中国などとの深い関わりがある史跡が多数残っており、多くの外国人観光客が訪れています。

今後は、これらの史跡の整備を進めるとともに、外国人観光客が興味を持てるコースを設定するなど、外国人観光客の誘致を推進することが求められています。

■外国人宿泊客数・体験型観光客数の推移



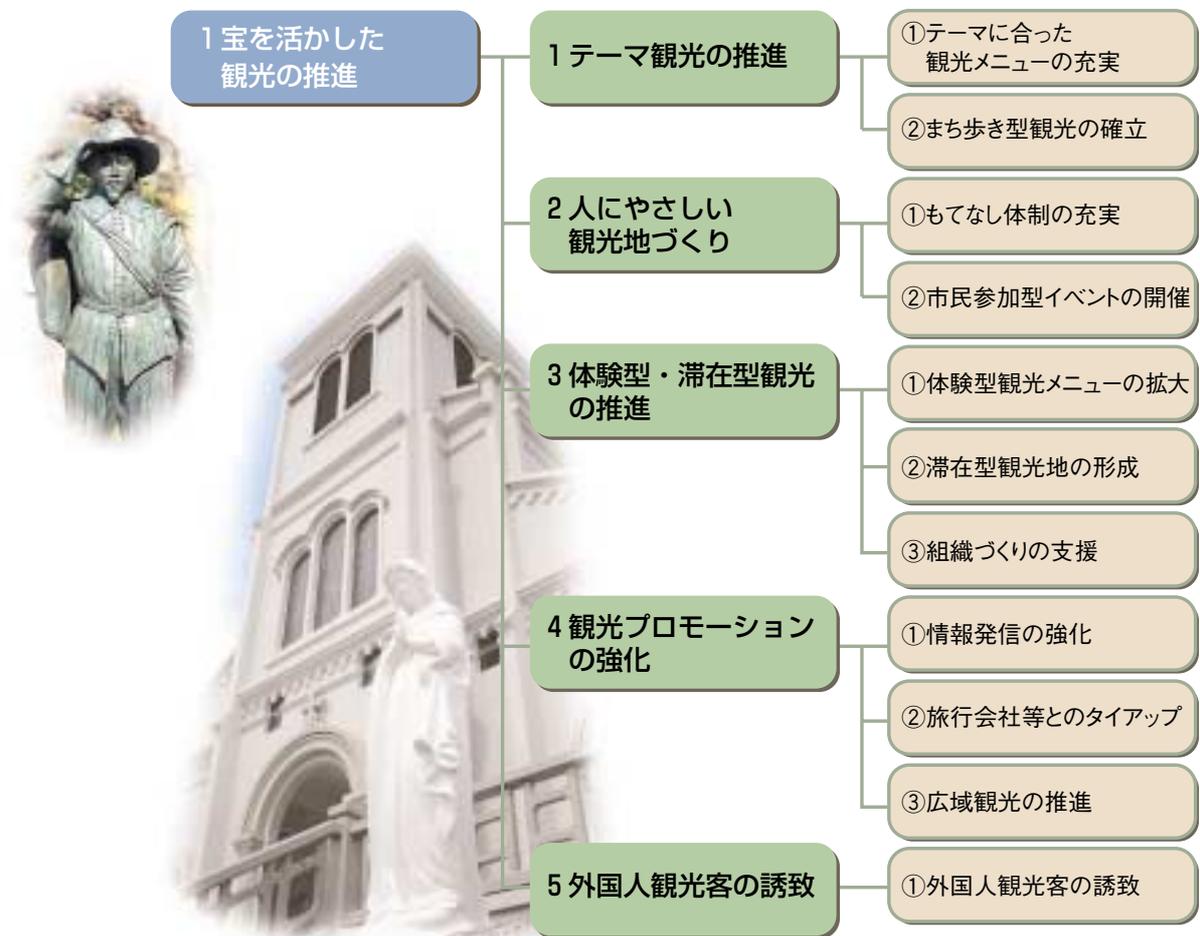
市民の満足度（50項目） ～ 市民アンケートから ～

項目の名称	満足度	項目の名称	満足度
地域の資源を活かした観光の振興に関すること	35.6%	行事や各種イベントの開催に関すること	69.8%

目標・方針

市民の温かいもてなしにより、あらゆる人が平戸の魅力に触れ、再び訪れたいくなるような観光地を目指します。

施策体系





施策の内容

5-1-1 テーマ観光の推進

- ① **テーマに合った観光メニューの充実**
 - ◆ 観光客のニーズを的確に把握し、現存する観光資産（平戸の魅力）を「宝」へと磨き上げることに重点を置き、「平戸ならではの」観光地づくりを推進します。
 - ◆ 美しい山、海、花、温泉等の自然資源やテーマの融合が図れるような自然と歴史の体験や憩いが体感できる空間の保全・活用に取り組みます。
 - ◆ 観光客が「大航海時代の城下町」の面影を実感できるようなまちなみ景観づくりを推進し、テーマに合った多様な観光メニューの充実を図ります。
 - ◆ 平戸が誇れる自然・歴史・食などをテーマとした観光メニューを確立・拡充します。
- ② **まち歩き型観光の確立**
 - ◆ 平戸市中心市街地まちづくりのコンセプトである「歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり」を基本においた整備を推進します。
 - ◆ 観光客が気軽にまち歩きができ、地域住民と交流できるコースを設定し、景観の整備やポケットパークの設置など、一体的に整備を進めます。
 - ◆ 「まち歩き型観光」を推進するため、まち歩き用の観光マップを作成します。

5-1-2 人にやさしい観光地づくり

- ① **もてなし体制の充実**
 - ◆ 訪れるすべての人に「再び訪れたい」という気持ちを持っていただけるよう、「おもてなしの観光地」づくりを地域と一体となって推進します。
 - ◆ 観光を通じた地域住民とのふれあいや地域の暮らしを体感してもらうため、市民全ての人々が温もりのある心で接することができるよう、もてなしの心の醸成を図ります。
 - ◆ ささまざまなニーズの観光客にきめ細やかな案内を行うため、地域住民と行政が協力して、平戸の自然・歴史・文化等を伝えるボランティアガイドの育成・支援を行います。
 - ◆ 快適な各種アクセスルートの整備・演出や標識の整備など、テーマが見える交通アクセスづくりに努めます。
- ② **市民参加型イベントの開催**
 - ◆ 伝統芸能などを活かした、市民が楽しめる「平戸ならではの」参加型イベントを実施することにより、観光客も一緒になって楽しめる魅力ある交流型観光を促進します。



第3章 基本目標(分野別目標)

5-1-3 体験型・滞在型観光の推進

- ① **体験型観光メニューの拡大**
 - ◆ 農林水産業や地域特有の文化・伝統芸能などと連携した体験・交流型観光メニューの拡大・充実を支援します。
 - ◆ 独自の観光メニューの拡大や近隣市町との広域的な連携により、観光メニューを充実します。
 - ◆ グリーンツーリズムやブルーツーリズム^{※1}に関する情報や文化・芸術・スポーツ等のイベント情報を発信し、都市部の住民等の誘客に努めます。
- ② **滞在型観光地の形成**
 - ◆ 単に見て回る旧来型の観光地から、新鮮な地元農林水産物を使った食の提供や温泉の活用などにより、滞在型観光地への転換を図ります。
 - ◆ 地域住民との交流や泊食分離などロングステイプログラムの提供により、観光客が自分で楽しみ方を選べる仕組みづくりに取り組みます。
- ③ **組織づくりの支援**
 - ◆ 魅力あるメニューの開発と観光客が満足できるサービスを提供するため、地域インストラクター育成や地域組織力強化への支援を行います。
 - ◆ 体験型観光の具体的な波及効果等の理解を深めるため、先進地視察や講演会等を開催し、やる気のある人材の発掘・確保を図ります。

5-1-4 観光プロモーションの強化

- ① **情報発信の強化**
 - ◆ テレビ、ラジオ、旅行雑誌、インターネット等のマスメディアを活用し、体験型・滞在型観光などさまざまな観光に関する情報を積極的に発信します。
 - ◆ 観光客のニーズにあった興味のあるテーマに絞って、情報発信を強化します。
 - ◆ 観光統計などを的確に分析し、修学旅行や地域別、年代別などといった各層への情報を効果的に発信します。
- ② **旅行会社等とのタイアップ**
 - ◆ 旅行会社等とタイアップし、平戸でしか味わえない、または、平戸でしか体験できないような「平戸ならではの」素材を活かしたツアー企画を全国に展開していきます。
- ③ **広域観光の推進**
 - ◆ さまざまな観光資産をテーマごとに組み立て、広域周遊観光ルートの開発を推進します。
 - ◆ 県北地域などの広域連携により、観光キャンペーンなどを展開し、広域的なPRを推進します。

※1 グリーンツーリズム・ブルーツーリズム

山村、農村、漁村等での暮らしを体験し、地域の歴史、文化、自然、食、人に触れ合う旅行のスタイル。グリーンツーリズムは山村、農村での生活体験を、ブルーツーリズムは島や沿海部の漁村での生活体験を楽しむ旅行スタイル



5-1-5 外国人観光客の誘致

① 外国人観光客の誘致

- ◆ 外国人観光客の誘致を促進するため、外国と関係のある史跡の整備を推進するとともに、外国人観光客が興味を持てるようなコースを設定します。
- ◆ 地理的・歴史的なつながりを活かし、東アジア地域を中心とした観光客の受け入れ体制の整備を促進します。
- ◆ 外国の文化、歴史、語学などの研修会の開催や県と連携した外国人研修生の受け入れに取り組みます。
- ◆ 市ホームページに、英語や韓国語、中国語などの外国語による情報を掲載し、平戸市の魅力を海外に向け発信します。
- ◆ 外国人観光客に対応した観光案内板や観光パンフレット、観光マップを整備します。

やらんば指標（成果指標）

指標の名称	年度	現況値	中間目標値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)
観光客数(交流人口)	H18	162万人	170万人	180万人
宿泊客数	H18	266,498人	300,000人	350,000人
観光消費額	H18	105億円	110億円	120億円
ボランティアガイド数	H18	76人	100人	120人
体験型観光客数	H18	4,641人	5,000人	5,500人
外国人宿泊客数	H18	6,144人	10,000人	15,000人

※観光客数(交流人口)、宿泊客数、観光消費額、外国人宿泊客数については、年間(1月～12月)で集計

みんなのまちをよくするために・・・

- 自然・歴史・文化等を学び、観光へ活かしましょう。
- 身近にある豊かな地域資源を再認識し、平戸市の魅力をPRしましょう。
- 市民みんなで観光客をもてなしましょう。

第2節 地域・国際交流の推進

現状と課題

◆ 交通網、情報通信の発達により、人々の行動範囲が広がり、交流機会が拡大しています。本市においても、多くの人が文化活動、スポーツ活動等を行っており、その活動を通して市内外の人と活発に交流しています。

交流は、人々の感動を呼び起こし人間性を豊かにするものです。今後とも、市民のさまざまな交流を促進し、交流をより深めていくことが求められます。

◆ 本市は、九州の西、長崎県の北西端に位置していることなどから、周辺都市との広域的な道路ネットワークは十分に整備されていない状況です。県庁所在地の長崎市や長崎空港そして福岡市とは、自動車でも2時間から2時間30分程度かかる位置にあります。

今後、佐世保市及び佐賀県唐津市まで開通している西九州自動車道の整備やそれと本市をつなぐ道路整備を促進し、福岡都市圏や長崎市などとの広域的な道路ネットワークの形成が望まれます。

◆ 本市は、歴史的にアジア諸国やヨーロッパとの関係が深く、交流が盛んに行われてきました。平成7年には、中国南安市と友好都市の締結を行い、相互訪問により交流を深めています。

また、「12Xおらんだ」 「青少年日蘭交流事業」 やオランダから招致した国際交流員^{*1} による学校でのワークショップの開催などさまざまな活動を行い、友好的な交流を続けています。

今後とも、お互いの価値観を尊重しあい、異文化への相互理解を深めるため、さらに国際交流を推進していくことが求められています。



枝幸町・平戸市いきいき交流事業

市民の満足度 (50項目) ～ 市民アンケートから ～

項目の名称	満足度	項目の名称	満足度
地域間交流の推進に関すること	57.7%	国際交流の推進など国際化への対応に関すること	61.8%

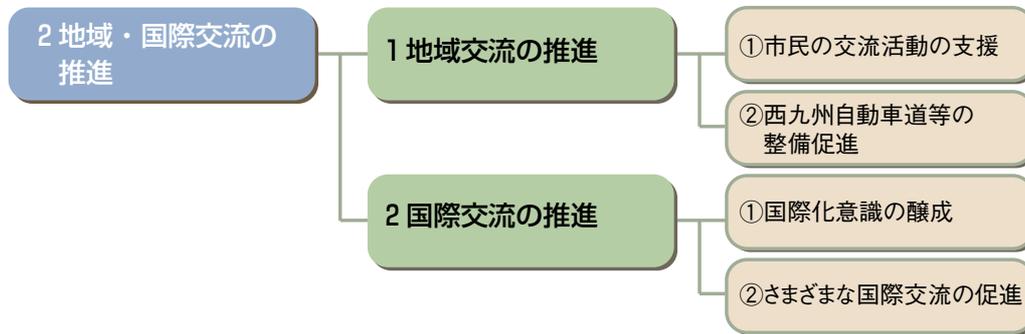
※ 1 国際交流員

語学指導を行う外国青年招致事業に参加し、地方公共団体で国際交流事業に従事する外国青年

目標・方針

さまざまな人と交流することで、お互いの地域の知識を深め、理解しあい、感動を分かちあい、それぞれの人間性を高められる交流を目指します。

施策体系



施策の内容

5-2-1 地域交流の推進

① 市民の交流活動の支援

- ◆ 市民の一体感の醸成を図るため、市内におけるさまざまな交流活動を促進し支援します。
- ◆ 姉妹都市をはじめとした市民の市外とのさまざまな交流活動に対し支援します。
- ◆ 歴史的、風土的、経済的に密接な関係を有する伊万里・北松浦地域や佐世保市などの周辺地域との交流を一層深め、広域的な観点から、観光、産業、文化といった分野での活性化を図ります。

② 西九州自動車道等の整備促進

- ◆ 西九州自動車道の早期完成とそれに伴うアクセス道路の整備について、関係団体との連携をさらに強化し促進します。
- ◆ 東彼杵道路の早期計画路線への指定に向け、関係自治体との連携を強化し促進します。

5-2-2 国際交流の推進

① 国際化意識の醸成

- ◆ 国際化に対応した人材の育成を図るため、国際意識の醸成を図ります。
- ◆ 国際交流員によるワークショップの開催などにより、幼児・児童・生徒などの異文化への興味、関心を高めます。
- ◆ 外国語講座の開催を促進するとともに、ホームステイの実施などにより国際感覚を身につけます。

② さまざまな国際交流の促進

- ◆ 友好都市をはじめとした諸外国との交流をより一層深めていくため、文化、スポーツ、経済といったさまざまな分野における交流の促進を図ります。
- ◆ 市民レベルでの国際交流を促進するため、多様な交流活動を行う団体への支援を図ります。

みんなのまちをよくするために・・・

- 市内外とのさまざまな交流活動に参加しましょう。
- 異文化を理解しながら外国の人と交流しましょう。



12x おらんだ



青少年日蘭交流事業



国際交流風景（ピープルトゥピープル学生大使）